
■ 第 1 編 工事等の概要

第 1 章 工事概要

1. 全体工事概要

阿波しらさぎ大橋建設工事

- ・ 橋長 $L = 1,291\text{m}$
- ・ 幅員 $W = 26.3 \sim 32.3\text{m}$ （4 車線、両側歩道）
- ・ 河川内橋脚 13 基（P2～P14）、陸上橋脚 1 基（P1）、陸上橋台 1 基（A2）
- ・ 干潟部（P1～P5）橋梁形式：4 径間連続ケーブルイグレット鈑桁橋（575m）
- ・ 一般部（P5～A2）橋梁形式：5 径間連続ラーメン鈑桁橋×2（716m）



工事実施場所

2. 工事進捗状況

平成 24 年 3 月までに工事完了し、平成 24 年 4 月 25 日に供用した。平成 16 年度から平成 23 年度までの年度別の完成状況は、図 1-1「年度別工事の施工状況」に示したとおりである。

EAST CIRCULAR "EGRET" BRIDGE CONSTRUCTION PROJECT

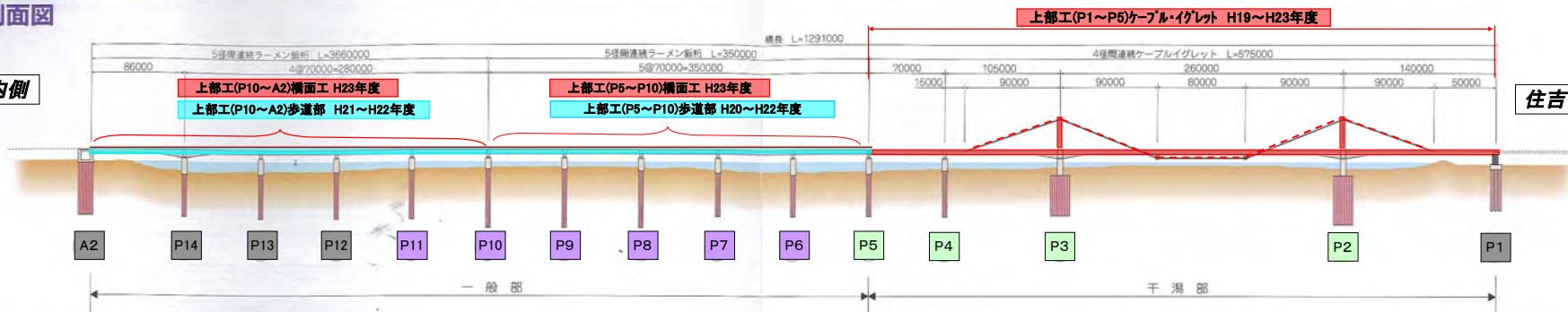
平成24年3月時点

(都) 徳島東環状線・阿波しらさぎ大橋
徳島市住吉6丁目～川内町鶴島

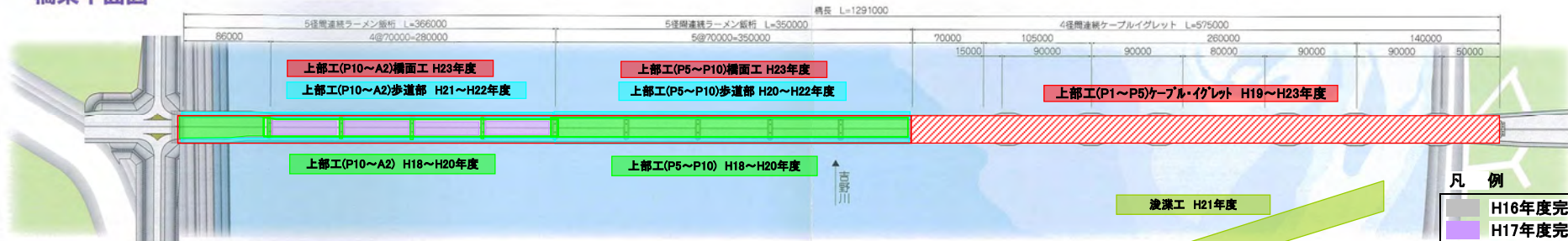
橋梁側面図

川内側

住吉側



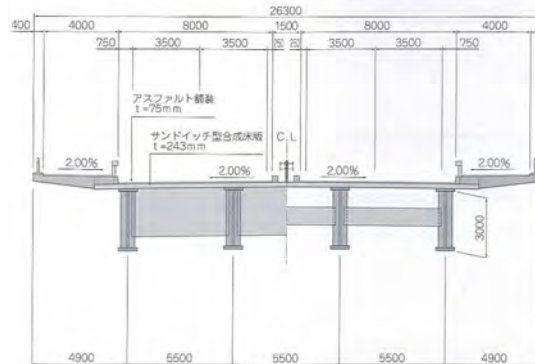
橋梁平面図



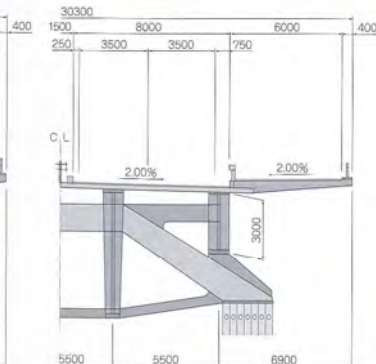
凡例

- H16年度完成
- H17年度完成
- H18年度完成
- H19年度完成
- H20年度完成
- H21年度完成
- H22年度完成
- H23年度完成

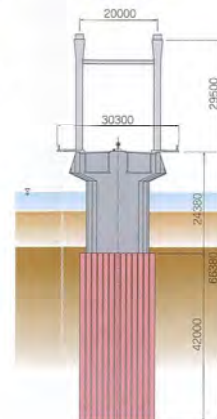
上部工標準断面図



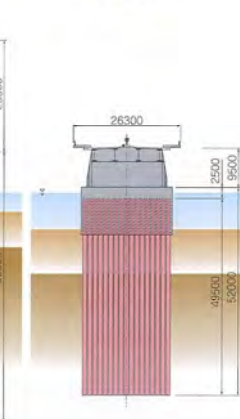
上部工標準断面図(サドル部)



P2橋脚



P7橋脚



計画諸元

橋梁名称	阿波しらさぎ大橋
道路規格	第4種 第1級
設計速度	V=60 km/h
設計荷重	B活荷重
橋長	L=1291.0m
橋梁形式	干潟部 4径間連続ケーブルリグレット鈑桁橋 一般部 5径間連続ラーメン鈑桁橋×2
径間割	ケーブルリグレット 140+260+105+70=575m ラーメン鈑桁 5@70=350m ラーメン鈑桁 4@70+86=366m
幅員	全幅 26.3m～32.3m(A2橋台拡幅部) 車道 (8.0m～11.0m)×2, 歩道 4.0m×2
下部構造	壁式RC橋脚, 壁式SRC橋脚, ラーメン式RC橋台
基礎構造	鋼管矢板ウェル基礎, 中掘りSC杭基礎

図 1-1 年度別工事の施工状況

3. 平成 16 年度（着工）から平成 23 年度（完成）までの状況

平成 16 年度(着工)から平成 23 年度(完成)までの上空からの状況は写真 1～写真 8 のとおりである。



写真 1 平成 16 年 6 月



写真 2 平成 19 年 9 月



写真3 平成20年4月



写真4 平成22年3月



写真 5 平成 22 年 9 月



写真 6 平成 23 年 4 月



写真7 平成23年12月



写真8 平成24年4月

4. 基礎工事から完成までの現場状況（干潟部）

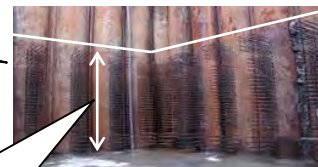
1) 基礎



鋼管矢板： $\phi 1200$ 、 $L = 54.0\text{m}$ 、 $N=75$ 本
 工法：打撃工法(防音壁・防音管施工)
 規模： $21.5 \times 18.6 \times 4.5\text{m}$ 、スタッド鉄筋 $N=5,824$ 本(112本/1鋼管)

陸上での実験では、杭打ち時の騒音は「防音壁・防音管」で音源から60mの距離で13.5db（デシベル）の減音効果がありました。

スタッド鉄筋



頂版コンクリート厚(4.5m)

2) 躯体



躯体強化と自重軽減のため
 $\phi 1.7\text{m}$ の鋼管を設置



鉄筋の周りにPC鋼線を巻き、地震時せん断耐力を上げている



煙突状の $\phi 1.7\text{m}$ の鋼管

3) P1-P2 間桁架設



落とし込み桁の架設は
 温度変化が少ない曇天
 を選んで施工



P1-P2間
 桁架設完了

4) 主塔



主塔完成後
 塔頂ケーブルの取り付け



仮設横桁（仮ケーブル固定用）をスラットの上に構築
 これから仮ケーブルを中央に延ばしていく



5) 中央径間の張り出し架設



1 段目仮ケーブル



3 段目



2 段目



4 段目



ストラット上から見た 4 段の仮ケーブル

4 段目

3 段目

2 段目

1 段目

6) 桁閉合 1,291m



平成 23 年 4 月 25 日閉合

7) 下サドル設置

斜ケーブルと水平ケーブルが
この下サドルに固定される



- ・干潟の環境を守るため、桁架設は干潟内にはベントを建てず仮ケーブルで桁を吊りながら伸ばしました。
- ・次の工程は、仮ケーブルから本ケーブルに受け替える工事です。 水平ケーブル架設時も干潟内には足場用ベントを構築しませんでした。

8) 本設ケーブル架設



水平ケーブル架設



中央斜ケーブル架設



ケーブル緊張時(1000 t ジャッキ)



側径間斜ケーブル架設



9) 床版・橋面工



サト・イチ床版架設



鋼板と防水層の密着性を高める
ため表面を研掃



ウルタ防水層と舗装を一体化させる層
(表面が舗装の温度で溶けて一体化)



架設時の耐風安定のため、
車道床版と歩道部床版を
同時架設



高欄にフラップ 設置



防錆材・接着剤を塗ってから
ウルタ防水層を吹き付け



舗設状況

10) 完成

